

2024年春期の県内植木市場における取引動向

愛知県植木センターでは1986年から県内の植木市場において、主に地元から出荷される緑化樹木を中心に21品目（一般植木、株・玉物、生垣用樹）の取引量を春期（2月～4月）と秋期（10月～11月）に調査しております。また、2008年からは近年市場でよく見られる10品目を追加して調査しております。今回は本年春期の取引動向の概要について紹介します。

1 全体取引量（追加樹種を含まず）〔図－1〕

近年の全体取引量は、2010年以降減少傾向が続き、2016・2017年は増加に転じたものの、翌年から再び減少傾向となり、今期も減少しました。

全体では前年同期（約9.8万本）から減少し、8.7万本で、前年同期比は89%となりました。用途別では、一般植木は前年同期比90%、株・玉物は86%、生垣用樹は95%で、一般植木、株・玉物、生垣用樹すべてにおいて減少傾向が見られました。

2 用途別の取引動向（追加樹種を含まず）〔図－1、図－2〕

(1) 一般植木（12品目）

一般植木の取引量は約2.6万本で、前年同期（2.9万本）より約0.3万本減少しました。2008年代後半には4万本程度まで減少し、最近では3万本前後の取引量となっています。

取引量の多い品目は、自然形ではカエデ類が多く、続いてキンモクセイ、ツバキ、カシ類で、昨年からはカエデは減少し、キンモクセイ、ツバキ、カシ類は増加しました。仕立物ではクロマツを始め、全体的に低調のままで減少傾向でした。

(2) 株・玉物（5品目）

株・玉物の取引量は約4.4万本で、前年同期（5.1万本）より約0.7万本減少し、下げ止まりの状況かと思われます。

株・玉物は、サツキ、ツツジ類、イヌツゲで約99%を占めています。

(3) 生垣用樹（4品目）

生垣用樹の取引量は約1.7万本で、前年同期（1.8万本）より約0.1万本減少となっており、前年度と同程度で推移しています。

取引量の多い品目は、サザンカとイヌマキで、生垣用樹の約83%を占めます。続いてマサキ、カイズカイブキでいずれも減少傾向でした。

3 調査追加樹種（10品目）を含む調査結果〔図－3、表－1〕

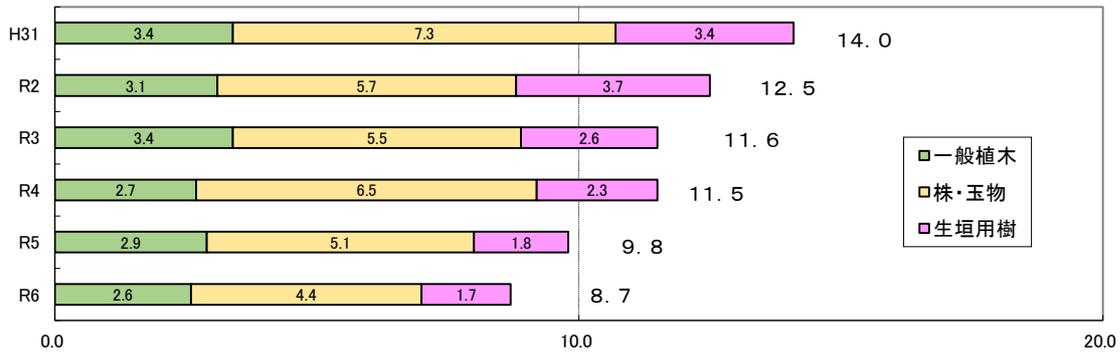
追加樹種を含めた取引上位10品目では、従来からサツキとツツジ類が上位を占めています。今期は、オタフクナンテンが増加して順位を上げ、一方、ツツジ類、ドウダンツツジが減少し、順位を落としました。全体的には少量、多品種で推移しています。

調査市場

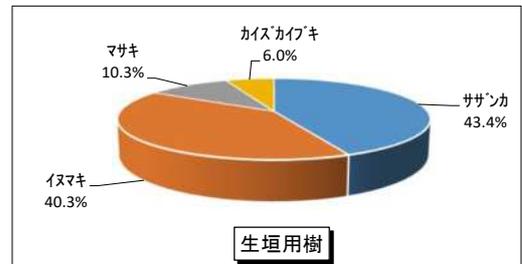
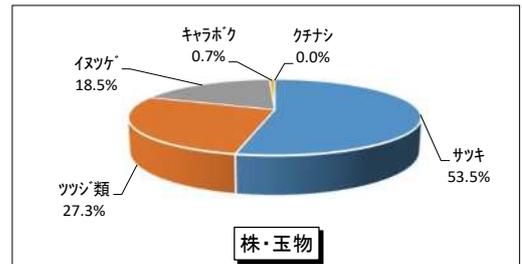
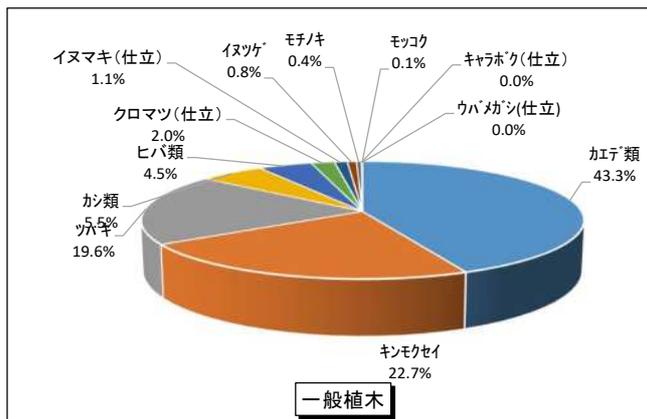
農事組合法人 井堀植木生産組合（稲沢市井堀江西町）

矢合植木市場株式会社（稲沢市矢合町）

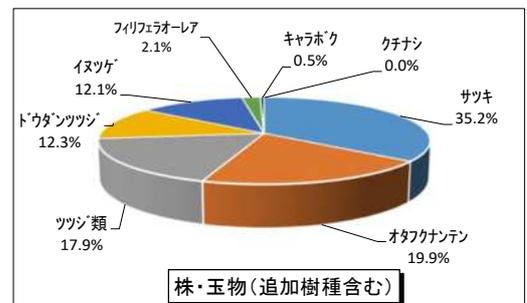
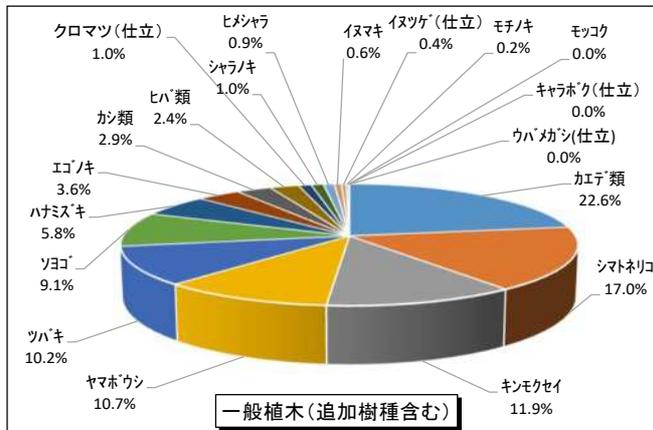
図一 春期取引量の推移（単位:万本）



図二 春期取引量の区分別構成比（%）



図三 春期取引量(追加樹種含む)の区分別構成比（%）



表一 春期取引量上位10品目(追加樹種含む)の動き

順位	令和4年			令和5年			令和6年		
	品名	区分	前期比	品名	区分	前期比	品名	区分	前期比
1	サツキ	株	...	サツキ	株	...	サツキ	株	...
2	ツツジ類	株	↗	ツツジ類	株	↘	オタフクナンテン	株	...
3	オタフクナンテン	株	↗	サザンカ	生	...	ツツジ類	生	...
4	サザンカ	生	...	カエデ類	一	...	カエデ類	一	...
5	シマトネリコ	一	...	ドウダンツツジ	株	...	シマトネリコ	一	...
6	ドウダンツツジ	株	↗	オタフクナンテン	株	↘	ドウダンツツジ	株	↘
7	イヌツゲ	株	↗	イヌツゲ	株	...	イヌツゲ	株	↘
8	カエデ類	一	...	シマトネリコ	一	↓	サザンカ	生	↓
9	ツバキ	一	...	ヤマホウシ	一	...	イヌマキ	生	↑
10	イヌマキ	生	...	キンモクセイ	一	↑	キンモクセイ	一	...

・前期比単位 ...: ±20%未満 ↗ : +20%以上40%未満 ↘ : -20%以上40%未満
 ↑ : +40%以上 ↓ : -40%以上 — : データなし

・区分 一: 一般植木 株: 株・玉物 生: 生垣用樹